

第1回文京区アカデミー推進協議会(生涯学習分科会) 議事要旨

日 時 平成27年6月9日(火) 18:30～20:30
会 場 文京シビックセンターB1階 学習室
委 員 会 長 田中 雅文 (日本女子大学教授)
委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア
講座企画委員会 委員長)
委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長)
委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長)
委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会)
委 員 小林 博 (区民公募委員)
委 員 増田 純 (区民公募委員)
委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)
委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)
委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)

欠 席 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)
事務局 山崎 克己 (アカデミー推進部アカデミー推進課長)
熱田 直道 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長)
倉田 靖雄 (真砂中央図書館長)
福田 昭正 (アカデミー推進部アカデミー推進課アカデミー推進係長)

(公財)文京アカデミー

上野 晶子 (アカデミー文京所長)
浮田 昌和 (アカデミー文京学習推進係長)
支援事業者 株式会社創建 大谷・氏原・本多

資 料 参加者名簿
指定管理者制度について
図書館事業の概要・実績について
事業パンフレット等
平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表【生涯学習】
平成26年度 アカデミー推進計画取組状況結果

議 事

1. 開 会

2. 委員等紹介・進行の確認

会長からの挨拶ののち、各委員から自己紹介が行われた。
事務局より配布資料の確認が行われた。

3. 議 題

(1) アカデミー推進計画の生涯学習分野における平成26年度の進捗状況の評価

事務局より、「平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表【生涯学習】」「平成26年度 アカデミー推進計画取組状況結果」に基づきアカデミー進行計画の取組状況について説明を行った。

- | | |
|---------|--|
| 田中会長 | はじめに、平成26年度の進捗状況の評価について質問はあるか。 |
| 黒田委員 | インターネット施設予約システムの更新について、今年度新たに何か取り組むということだが、具体的にはどういうことか。 |
| 事務局 | 来年以降、現行システムのリース期間満了に伴い、施設の管理者の意見を踏まえ、システムを改良していくことを考えている。アカデミー関連施設以外でも、男女平等センターや区民センターなど様々な施設が更新の対象となっている。 |
| 黒木委員 | 予約システムそのものの更新なのか、予約できる施設・場所が増えるということか。 |
| 事務局 | 予約ができる施設・場所は毎年少しずつ増えている。 |
| 黒木委員 | その際、区民の意見を踏まえた改善をしているのか、それとも区職員の意見のみを反映しているのか。 |
| 事務局 | 区民の方の意見は各施設で集約し、その意見を踏まえた各施設の意見をアカデミー推進課で整理している。 |
| 黒木委員 | 全ての施設がいつでも、どこでも予約できるわけではないのか。 |
| 事務局 | インターネット施設予約システムが全ての施設を対象にしていない点は、少しずつ改善してきている。区民会議室はシステムで予約できないが、エリアごとの利用が多くなっているため、会議室の利用者から、システムで予約できない方がよいのではないかという意見も出ている。 |
| 田中会長 | 管理者と直接やり取りができた方がよいという状況もあるということか。 |
| 増田委員 | eラーニング講座は年間での程度の講座が開催されているのか。 |
| 文京アカデミー | eラーニング講座は公益財団法人文京アカデミーの事業で、毎年3講座新規で開催している。資料には従前の事業も掲載しており、累計では27講座程になっている。 |
| 小林委員 | アカデミー向丘の整備で、どのように施設が変わったのか。 |
| 事務局 | 施設の規模は従前とほとんど同様となっているが、以前はなかったエレベーターが新たに設置される等の変更点がある。 |
| 田中会長 | 学ぶ機会のほか、学んだ方がボランティア活動など、活かす場への接続についても事業として行っているのか。 |
| 事務局 | 区民の主体的な活動の支援や相談体制の整備、人材育成といった主旨も入っているが、具体的な事業としてはまだ足りていないと感じている。 |
| 柳澤委員 | アカデミア講座の修了生が趣味の会をつくって活動が続けられているが、そのような活動も広い意味で生涯学習と捉えている。この点について、区はどのように考えているのか。 |
| 事務局 | 社会教育登録団体制度で、現在約1,000団体が登録している。区は登録団 |

体に対する使用料の減免というかたちで支援を行っている。

田中会長
事務局 社会教育登録団体の所管はアカデミー推進課なのか。
アカデミー推進課が所管する団体もあるが、スポーツに関する団体はスポーツ振興課が所管している。

黒木委員
黒田委員
事務局 図書館について、iPad等はどこまで利用できるようにしようと考えているのか。
電子書籍の導入は考えているのか。
施設の利用予約システムであり、利用者の希望を汲み取り予約しやすいものとしたいと考えている。電子書籍の導入は考えていない。著作権等の問題もあり、今後の課題と捉えている。

三谷委員
事務局 大学連携の講座は、大学からの提案によるものか、それとも区から大学に提案しているものなのか。
その両方となっている。

三谷委員
事務局 文京区内には福祉系の大学は多くある。大学連携となると、福祉分野の講座が生涯学習の講座として位置づけられるのか。
アカデミー推進課が大学連携の窓口となっているが、公益財団法人文京アカデミーとも連携して、福祉分野に限らず様々な分野で生涯学習の講座の開催に取り組んでいく。

黒木委員
柳澤委員 大学連携において、高等教育の方向性に関する講座を開催してほしい。
アカデミア講座のリピーターは多いと思うが、トータルの参加者数はどの程度なのか。

文京アカデミー 平成26年度で2,571名となっている。これとは別に区民の方がプロデュースした講座が258名となっている。

田中会長
文京アカデミー 人数のカウントはどのような方法で行っているのか。
講座ごとの受講者数であるため、1人の方が複数の講座でカウントされていることもある。
例えば5回でひとつの講座の場合は受講者1人がカウントされている。

田中会長
文京アカデミー これは経年変化等の比較データはあるのか。
平成25年度ではアカデミア講座の受講者数は2,367名、区民の方がプロデュースした講座が242名、平成24年度は2,546名、区民の方がプロデュースした講座が208名だった。平成25年度に数字が下がっているように見えるが、少人数制の講座が多い年だったことによるだろう。講座の性質により定員に上限があるので、年により合計定員が増減することがある。

田中会長
文京アカデミー
増田委員 リピーター率などは把握しているのか。
個人情報でもあるので把握しきれていない。
講座の受講者数は、定員とほぼ同数だと思うが、応募者の総数は把握しているのか。

文京アカデミー 平成26年度の応募者数は3,759名で、受講者数は2,571名となっている。約1,200の方が抽選に漏れていることになっているが、先程の説明のとおり、複数講座に申し込んだ方もそれぞれ1人としてカウントしている数字である。平成25年度は応募者が3,319名で、受講者数が2,367名となっている。

柳澤委員 施設のキャパシティにも限界があるので、受講者数を増やし続けることはで

- きない。
- 田中会長 定員割れの講座の数は把握しているのか。
- 文京アカデミー 詳細は把握できていないが、数としては少ない。
- 田中会長 学んだことを活かすことへの接続について、アカデミー推進課と他の部署との連携によって、スムーズに行える仕組みづくりができるかといえるのではないのか。
- 事務局 ボランティア等で学んだことを活かす機会をつくる仕組みということか。
- 黒木委員 区内には多くの団体があるので、生涯学習一日体験フェアへの参加を促す取り組みをしてはどうか。
- 田中会長 生涯学習一日体験フェアの出展団体が少ないため、情報をもっと周知できるとよい。
- 事務局 口コミ等の直接的なコミュニケーションも効果があると感じている。うまく活かす方法を考えていきたい。
- 文京アカデミー 生涯学習一日体験フェアは学びへの動機付けを目的に始まった。講座終了後にグループを作り、社会教育関係団体に登録し活動している方々の発表機会となってきた経緯があり、未登録団体への声かけがまだ不十分などところがある。
- 小林委員 講座の講師の方はどのような方が多いのか。とても親切で、知識の豊富な方が多いように感じている。
- 柳澤委員 人材育成講座文の京地域文化インタープリター養成講座の修了生などがある。成果を伝えるためにしっかりと勉強した人が講師等で事業に参加している。
- 黒田委員 今年度は石川啄木について大きくイベントが打ち出されたように感じている。しかし、アカデミー推進課と他の部署と連携がうまくできていないように感じている。連携について今後考えてはどうか。
- 事務局 アカデミー推進課では文の京ゆかりの文化人顕彰事業に取組み、毎年ある文化人にスポットをあてて講座を開講している。昨年度は佐藤春夫の没後50年を記念した顕彰事業を行っていたが、歌碑ができるということで、文京区では石川啄木にもスポットがあたっていた。佐藤春夫については連携した取組みを行っていたが、石川啄木についてはアカデミー推進課内のみでの連携となってしまうていた。極力、他の部署との連携も念頭に置いて取組みを考えたい。
- 黒田委員 インタープリターの方が取り組んだ石川啄木の企画を通じて交流が生まれてとてもよかったと感じている。インタープリターの養成講座は毎年できるとよいのではないのか。人づくりという視点が重要だと感じている。
- 事務局 インタープリターの養成講座は歴史の分野で続けられてきており、歴史の得意な方が多くなっている。他の分野へも広げる必要があるということで期間を空けていたが、今年からは文学について講座を開く予定がある。また、生涯学習司の養成にも隔年で取り組んでいる。
- 黒田委員 養成講座を修了した方も現場にかかりきりになってしまい、余裕がない状況になってしまっている。毎年人を養成し、全体のレベルの向上に区として取

- り組んでほしい。
- 田中委員 講座に生涯学習司の方が関わることで修了後にサークルができるという状況があるならば、例えば、必ず各講座に生涯学習司を配置するなどの仕組みづくりを行ってはどうか。
- 田中会長 学びの成果を他の分野にも広げて展開できるとよい。例えば社会教育や福祉の分野で学びの成果を発表する機会があれば、理解も深まるだろう。
- 黒木委員 学びの成果を活かすことを実践している人はいるが、現場に入るとかかりきりになり、他のことができなくなる。結果として、インタープリターのような人材の不足につながると感じている。
- 田中会長 体制の充実など、昨年度の評価について、お気づきの点はあるか。
- 柳澤委員 「いつでも、どこでも、だれでも」という視点で充実した取組みが進められているが、実際キャパシティは限界だと感じている。
- 文京アカデミー 例えば、講座を増やし過ぎると区民が活動する場所が確保できなくなってしまふこともある。
- 田中会長 区の主催講座と区民の自主講座のバランスを考えることが重要であるが、活動の場所が足りない状況になっているということか。
- 黒木委員 突然の学びの場という考え方もある。場所があるだけが学びではないということを広めてはどうか。
- 田中会長 個人が偶発的に、体験しながら学習するということもある。一方で、区が場所を提供することは一つの支援の在り方だが、キャパシティの限界が来ているといえそうだ。eラーニングという取組みがあるが、これは場所の限界はない。量の限界に対する工夫や、質の向上などについてご意見はあるか。
- 田中委員 大学との連携講座に関して、改善の要望がスムーズに通りにくいと感じている。
- 文京アカデミー 大学の先生の教え方や視点は人それぞれで、区としてどのように協力を要請していくかは今後も考えていきたい。
- 田中会長 大学の教員は、市民向けの講義が得意な人とそうでない人がいる。大学教員への研修もまだ不十分な点があると感じている。市民の声が大学に届くように取組みを考えていく必要がある。
- 松井委員 区民プロデュースにしても、参加者がブラッシュアップしていく中で事務方も努力して人気の講座ができあがっていると感じている。大学については、担当者も大学との調整だけでなく、区民の方への説明も行い、極力満足してもらえる講座にするよう工夫をしている。今後も努力を継続していきたい。
- 田中会長 大学の連携講座について、講座の満足度調査は行っているのか。
- 文京アカデミー 大学の連携講座に限らず、全ての講座でアンケートを取っている。
- 田中会長 その結果は大学とも共有して、大学からも今後工夫していきたい。
- 黒木委員 大学連携の企画の段階で区民が参加することは可能か。
- 田中会長 川崎市で大学と市民での企画の立ち上げを試みたことがある。市民の企画への関与は今後も課題になると考えている。特定の大学だけでなく、区内の全ての大学を対象に区民と公開講座について議論する機会ができていくとよい。

黒田委員 大学キャンパス講座を開講している大学の数が平成25年度には12大学あったが、平成26年度には10大学に減っている。協力するにあたって問題があったのか。

事務局 ネガティブな要素があつて減っているわけではないと考えている。講座の数自体は増えているため、大きな不安はないと考えている。

小林委員 平成26年度の事業評価について、平成25年度の評価を受けて改善したのか、大きな変化はなかったのか。

事務局 個々の事業内容の評価については、関係者の主観も入っていると思うが、人気の講座だけを推進するわけではなく、参加者が定数に満たなくても社会的に意義のある講座という意見があれば企画に反映してきていると考えている。

松井委員 講座について、参加者の少ない専門的な事業を充実させるという意見がある一方で、興味のある人が多い事業をより充実させるという意見もある。採算だけでなく、施設のキャパシティ、参加者の意向、社会的意義などの状況や課題を把握して、なるべく多くの人に満足いただける講座を選定しなければならないと考えている。

田中会長 これまでの議論や意見をまとめると、区が直接提供する施設についてはキャパシティが限界にきている。しかし、質を高める工夫の余地はある。また、直接的なキャパシティによらない大学や企業と連携した取組みやeラーニングなどを広げていく余地もあるということだろう。

柳澤委員 このほか、情報提供や相談体制について、ご意見はあるか。

事務局 図書館のサービス向上の中で、講座の開講はサービスの一環という位置づけなのか。

事務局 まずは図書館を利用してもらうきっかけとして、興味を持ってもらうための取組みという位置づけとなっている。その後図書館の利用につながれるとよいと考えている。

黒田委員 図書館で、ベストセラー小説などは予約の数が非常に多くなっている。例えば貸出禁止にすることはできないのか。

事務局 貸出禁止となると、図書館の来館者しか読むことはできないし、開館時間中しか読めないことになってしまうため難しい。また、文京区の図書館は区民以外の利用も可能となっている。このあたりは昨年の区民サービス向上委員会でも議論になり、区民を優先することは考えてなければならないと思っている。

黒田委員 例えば雑誌は次の巻が発刊されるまでは館内閲覧となっている。小説等でも同様の取組みができるかと良いと感じている。

田中会長 これは自治体間ネットワークで、区の図書館にない書籍を他の自治体の図書館から借りることはできなかったか。

事務局 文京区で所蔵されていない書籍については難しい。

田中会長 相談とは、アカデミーで学んだ方がさらに深い内容を理解するための相談を受けているということか。

事務局 学びを深めるための相談を受けることを目指している。相談相手となる方の名簿を作成しているが、その先の体制の整備が進められていない。今後の

- 課題として認識している。
- 柳澤委員
事務局 文京区の中央図書館はどのように改修されるのか。
改修ということで、外観は変わらず中身をより利用しやすいように更新していく。また、地域の図書館を充実させることを考えている。
- 増田委員
事務局 本をスムーズに借りることができるシステムが他区の図書館にある。文京区でもそのような仕組みを充実させてほしい。
- 田中会長
黒木委員 文京区の事業については、区民の満足度も低くないと感じている。今後システムを含めて、より利用しやすい図書館を目指したい。
- 文京アカデミー
田中会長 区民・団体の主体的な活動の支援について、ご意見はあるか。
黒田委員 インタープリターや生涯学習司の養成講座を毎年開催してほしい。人が足りていないと感じている。
- 文京アカデミー
田中会長 生涯学習司については申し込みが定員に至らなかったという状況がある。
黒田委員 区民の関心を高めるところから取り組めるとよい。
事務局 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた取組みは、平成26年度はどのようなことが行われたのか。
事務局 平成26年度は語学の講座を立ち上げた。その中で、単に語学だけではなく、おもてなしの心を学ぶことなどを予定となっている。
- 柳澤委員 今年度インタープリター養成講座を開催するということだが、応募者をしっかり集められるとよい。
- 文京アカデミー しっかりとPRに努めて、なるべく多くの方にご応募いただけるように取り組みたい。
- 田中会長 区民の方のロコミ等でもPRしていけるとよい。
三谷委員 文京アカデミア講座について、平成26年度の後期Ⅱではイタリア語、フランス語は中級のみとなっていた。できれば全ての講座で初級から取り組めるとよいと思う。
- 文京アカデミー 基本的には初級講座も開催している。平成26年度の後期Ⅱでは、東京外国語大学の本郷サテライト会場で行うということで以前の初級に続き中級の講座が開催予定となっている。
- 三谷委員 できれば全ての言語で每期、初級から開催してほしい。
文京アカデミー 每期全ての言語で初級と中級の講座を開催するのは難しい。また、中級の捉え方も区民の方によってズレがあり、レベルの調整については今後の課題と捉えている。英語については2020年オリンピック・パラリンピックを見据えて、おもてなしの心も学べる講座にしたいと考えている。
- 田中会長 基本的には初級の講座を開催し、大学との調整の中で、平成26年度の後期Ⅱのように中級のみになってしまうこともある。
- 文京アカデミー 一度初級講座を受けた方から、もう少しレベルを上げた講座を開催してほしいという要望があり、大学との調整した結果、ここでは中級講座を開催することとした。今後は受講者の要望と大学との調整の中で、基本的には初級講座としつつ、受講者の要望に応じて中級講座の開催を調整していきたい。
- 黒木委員 講座の講師も適宜変更して講座を充実させてはどうか。

- 田中会長 要望として承る。
区民・団体の主体的な活動の支援については、講座を受けた方のグループ化のサポートをさらに充実すること、生涯学習に取り組んでいる方のボランティア活動や、学習の成果を活かす場への接続を充実することが評価としてあげられた。
- 事務局 あげられた意見は次回の協議会に整理して提示する。

(2) 文京区の特徴や課題の検討(ワークショップ方式)

ワークショップ形式により、文京区の生涯学習分野における特徴や課題について意見を出し合った。主な意見は以下のとおりである。

●特徴

- 〈学ぶ〉 ・学ぶ場が充実している
- 〈活用する〉 ・生涯学習の関する人材が文京区には豊富にいる
- 〈環境〉 ・区の施設のキャパシティは限界にきている
- 〈大学連携〉 ・大学との連携体制は充実している
- 〈情報〉 ・生涯学習講座などの情報の周知方法に改善の余地がある

●課題

- 〈学ぶ〉 ・参加者が固定されてきており、新たな参加者が入りにくい
・区民のニーズに応じた生涯学習講座が求められている
- 〈活用する〉 ・生涯学習の発表の場が不足している
- 〈環境〉 ・区の施設のキャパシティは限界にきている
- 〈大学連携〉 ・大学施設の活用の余地がある
- 〈情報〉 ・生涯学習講座などの情報の周知方法に改善の余地がある

●方向性

- 〈学ぶ〉 ・生涯学習講座の質のさらなる向上に取り組む
- 〈活用する〉 ・生涯学習を行うための仲間づくりなど、人と人をつなぐ取組みを支援する
- 〈環境〉 ・図書館、地域活動センター、区内の大学施設のさらなる活用に取り組む
- 〈大学連携〉 ・大学との連携講座の質のさらなる向上に取り組む
- 〈情報〉 ・ICTを活用した情報周知・広報の仕組みの改善に取り組む
・情報の一元化と周知方法の多様化に取り組む

4. 閉 会

以上